

## 平成22年度第3回福岡県がん診療連携協議会議事録

日 時	平成23年2月14日（月） 14時00分～16時00分
場 所	九州医療センター（外来棟4階 研修室）
出席者 50名	別紙出席者名簿のとおり
九州がんセンター（院長）	<p><b>1) 開会の挨拶</b>          ただ今より平成22年度第3回福岡県がん診療連携協議会を開催いたします。今回は九州医療センターにお願いしました。ありがとうございました。          平成20年度から県の5年計画が始まり現在3年目であり、地域連携パスも少しずつ動き出し、院内がん登録も始まってきました。がん登録が軌道に乗れば、目標となっている生存率調査も可能となります。あと2年間でどれだけの目標達成出来るかと考えておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。          それでは、議事次第にそって進めていきたいと思っております。</p>
九州医療センター（院長）	<p><b>2) 開催病院長 挨拶</b>          本日は九州医療センターにお集まりいただきありがとうございます。          がん診療に関して、地域とのネットワークという観点でこの協議会の存在が重要であり、リーダーシップを発揮していただきたい期待しております。本日の協議会が実のあるものとなりますことを期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
九州がんセンター（藤）	<p><b>3) 各専門部会の現状報告</b>  <b>①地域連携・情報専門部会</b>          地域連携・情報専門部会の報告をさせていただきます。          （別紙資料にて説明）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域連携クリティカルパスワーキンググループメンバーについて              （地域連携・情報専門部会クリティカルパスWG会議名簿にて、現時点での構成メンバー及び各ブロックの疾患別のリーダーを紙面にて紹介）</li> <li>2. 地域連携クリティカルパスの導入・運用について              （福岡県の全がん診療連携拠点病院宛に事務局よりメール配信により報告した内容及びアンケート調査の趣旨を説明）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月19日現在における胃がん・大腸がんフォローアップパスの運用状況について、各施設の現況調査の目的でアンケート調査をお願いしました。</li> <li>・乳がん・肝がん・肺がんの連携パスの進捗状況ですが、各パスのたたき台がほぼ出来ました。現在、拠点病院全体でのコンセンサスを形成中です。</li> <li>・乳がん・肝がん・肺がんの連携パスの今後の予定ですが、                 <ol style="list-style-type: none"> <li>①連携パス調整会議で最終案を作成                      （各がん別に福岡県医師会の各ブロック代表4人[医師会で選出済み]と拠点病院のコアメンバーで議論）                      （日程調整が困難かと思っておりますので、それぞれのパス毎にメール上で議論を中心としたいと思います。）</li> <li>②最終案を「福岡県医師会がん診療連携運営委員会」に提出し了承を得る</li> <li>③「福岡県がん対策推進協議会」に提出し了承を得る。</li> <li>④各拠点病院で運用開始                      （連携施設への説明会・連携リスト作成を終えて九州厚生局へ提出）                      （県医師会としての「各がん種別の福岡県統一の連携先リストについては、現在未完成）</li> </ol> </li> </ul> </li> </ol>

(来年の3月までにパスを動かすことが拠点病院の指定要件となっているため、九州厚生局への申請の手続き準備期間を踏まえて考えれば、遅くとも8～9月までに④にたどり着かないといけない。)

(「私のカルテ」や「患者用シート」についても、胃がん・大腸がん同様のものを作成する必要がある。そのため、デザインは同じで色違いを作成する。)

以上のとおり準備をすすめているところですので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

### 3. 胃がん・大腸がんステージ1術後フォローアップパス進捗報告 (アンケート結果) について「2011.01.31 現在」(別紙資料)

(福岡県の全がん診療連携拠点病院宛に事務局よりメール配信により実施したアンケートの結果報告) n = 18施設

・Q: カルテの準備は出来ましたか

→ はい (14施設)、いいえ (4施設)

・Q: 連携医療機関に説明会を実施しましたか

→ はい (11施設)、予定あり (1施設)、いいえ (6施設)

・Q: 上記の説明会を何回開催しましたか

→ 1回 (6施設)、2回 (3施設)、4回 (1施設)、未実施 (8施設)

・Q: 九州厚生局への申請は終わりましたか。

→ はい (11施設)、予定あり (1施設)、いいえ (6施設)

以上、主な回答結果を抜粋

実際に連携パスの登録を行った施設は3施設あり、件数としては、今の所多い施設で3例となっております。今後登録件数が増えてくると思いますので、その段階で問題点等についてアンケートを行いたいと思います。

開業医の先生方は、お忙しいので、出来るだけ説明会を多く開催して数多くの方々に参加いただくことが必要ではないかと思えます。

### 4. 乳がん・肺がん・肝がんの連携パス調整会議の案内

胃がん・大腸がんステージ1術後フォローアップパス同様に、パスごとに、たたき台が完成したら、医師会の協力のもとに「連携パス調整会議」を開催し、連携パスの原案を作成します。そのための開催案内を行ったところです。

### 5. 非拠点病院での運用開始に関する事項について

連携パスについては、現在、拠点病院のみで運用を開始したところですが、非拠点病院においても連携パスの利用を希望する施設や、今後拠点病院への参加について、検討を進めている施設もあるため、パスを利用するにあたっての一定のルールが必要となってきます。ルールと言っても、今後、パスを利用していく上での見直しや調整などの更新情報をどのように発信していくかについてです。出来るだけ、統一したパスを使用し続けていきたいと考えています。システム作りについて、方針を打ち出していきたいと思いますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上報告となります。何かご質問はありますか。

福岡大学病院  
(田村)

連携パスについて、これまで拠点病院ごとに連携病院と調整を進めてきたところですが、非拠点病院との運用に関する調整については、恐らく医師会レベルでの調整が必要になると思います。現在、連携パスについて医師会が連携先病院全体を掌握して、連携先の医療機関リストの準備作業を行って頂いているところと聞いていますが、非拠点病院との調整についても同様の調整をおこなっていただけますでしょうか。

福岡県医師会  
(山岡)

連携医療機関については、現在名簿を集めている最中であり。あと数か所の医師会での調整が完了すれば名簿が完成すると思えます。また非拠点病院との調整についてですが、やはり、医師会が何らかの形で調整を行わなければいけないと考えています。

九州がんセンター  
(藤)

他にご意見はありませんか。

九州がんセンター（一瀬）	連携パスのバリエーション分析はどうなっていますか。
九州がんセンター（藤）	バリエーションをどのように捉えるかは非常に難しい問題と考えています。今の段階で大雑把に言えることは、パスから外れたらバリエーションとなります。バリエーションの定義について明文化は出来ないため、全国的にファジーな状態でしか始められないと思います。今後、バリエーションの定義も含めて調整を進めていきたいと考えています。
九州がんセンター（一瀬）	出来上がったパスを福岡県がん対策推進協議会において了承をもらう形になりますが、日程的な予定は今後どうなっていますか。
福岡県（中原）	福岡県としても国の方に現状報告について10月末に報告する必要があります。その調整のために、福岡県がん対策推進協議会の開催は、8月頃に開催予定です。
九州がんセンター（藤）	パスの調整については、がん対策推進協議会での了承はWEBでの会議で了承いただけることでこととなっています。9月末までに厚生局への届け出が必要ですから、目途としては8月中には完成している必要があると思います。
九州がんセンター（院長）	各施設で、症例の登録について相談支援センターや連携室にデータを収集しておくシステムを構築しておいて下さい。最終的には、協議会の方でデータを分析したりする必要が出てくると思いますので、いつでも提出出来るようにしておいて下さい。
九州がんセンター（西山）	<p><b>②がん登録専門部会</b>  がん登録専門部会の報告をさせていただきます。  （別紙資料にて説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回がん登録専門部会（平成23月1月24日、於：済生会福岡病院）の報告</li> </ul>
九州がんセンター（院長）	<p>部会としての案件の一つとしまして、がん登録のデータを国がんに提出していますが、戻ってきたデータをいかにして、先生方の医療機関に還元するかについて対応しているところです。前回の協議会の時に2007年分のデータについて5大がんに関しての来院経路、発見経緯、ステージ分類について報告したところですが、特にご意見等がありませんでした。今後、2008年データについても、現在戻ってきているところですので、前回同様に情報を還元したいと思います。もし、先生方で、このようなデータが欲しいとか、このような情報があれば診療や病院経営に役立つなどのご意見がありましたら、事務局にお伝え下さい。</p> <p>部会のもう一つの案件としまして予後調査がございます。各病院ともご苦労されているところではありますが、現況は、2007年のがん登録が終了、2008年のがん登録も終了し、今現在は、2008年のがん登録の結果が各病院に戻ってきている段階だと思えます。差し迫っている問題となっているのが、2007年の3年後予後調査について、提出を行わなければなりません。現在、福岡県の方にかなりご苦労していただき、各市町村の住民課窓口の担当の方にアンケートを実施していただきました。</p> <p>（下記のアンケート内容・結果について説明）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「問1. 各拠点病院から予後調査に関して住民票紹介をした場合、本人の同意書がなくても回答していただけるか、予後について教えて頂けるか」</li> <li>②「問2. 調査に対する回答手数料についてどのような対応をしていただけるか」</li> </ol> <p>現在、自治体へのアンケート結果はこのような（地方自治体の約半数が本人の同意書がなくても対応可能、地方自治体の約7割が手数料について免除の対応）結果となっていますが、次回6月の専門部会の時には、問1については、全自治体が本人の同意書がなくても回答可能、問2については、拠点病院からの紹介に関しては全て無料との対応を行なって頂けるように、県と協力して頑張っていきたいと思えます。</p> <p>がん登録専門部会からの報告は以上です。何かご質問等はございませんか。</p>
九州がんセンター（院長）	2011年度の3年後の予後調査について、今後の予定はどのようになっていますか。
九州がんセンター（西山） 九州がんセンター（院長）	<p>まだ正式なスケジュールは届いておりません。</p> <p>現状の問題として、住民票照会の際に同意書がないと回答できないという市町村がまだいくつかありますが、福岡県としての見通しはどのようにお考えですか。</p>

福岡県（中原）	<p>今年度に入ってから、がん登録は国や県から指定を受けた拠点病院において、県から依頼を受けてがん対策事業の一環で行なっていることを周知いたしました。その後の結果実施したアンケートなのですが、福岡県の市町村会議でも各市町村の足並みが揃っていないことについて議題に挙げて問題提起していただいたところです。また、3月に西山先生に協力していただいて、各市町村の住民票照会を行なっている担当者の集まりの中で、研修として、がん登録の業務がどのように行なわれているのかを説明していただく予定で準備を進めています。福岡県としても、いろいろな手段を尽くして、協力を得られるように努力していきたいと思っておりますので、ご協力のほど宜しくお願い致します。</p>
九州がんセンター（院長）	<p>国がんの方でも、先に進まない状況については認識しているようだが、全国担当者会議の際に発言の機会があれば、都道府県レベルの調整では限界があるため、国としての積極的な調整をお願いしたいとの意見を述べたいと思います。</p>
九州がんセンター（一瀬）	<p>このような状況について、市町村の首長が知らないことがないように、がん対策推進協議会のなかでも周知をしていただければと思います。</p>
久留米大学病院（山名）	<p>当院のがん登録担当者が、実際に当院の患者さんの件で各市町村に確認した中で、条例で定められているので同意書がないと回答出来ないと返答されたりしたこと、また、今回の調査がアンケート形式だったため、組織の上の方の意見ではないものも含まれているのではないかと報告を受けました。一番良い方法は、国の方から、がん登録という形で予後調査まで実施することをきちんと説明していただければ早く進むのではと思います。</p>
九州がんセンター（西山）	<p>市町村の担当者と県との意思疎通がうまく図れていなかったり、担当の方があまりがん登録のことを知らなかったりすることから、実際に大丈夫と言って下さる市町村もあるので、そのことを例に挙げながら担当者へ周知をしていくことで理解を深めていきたいと思っています。</p>
九州大学病院（高山）	<p><b>③研修・教育専門部会</b></p> <p>本日は、部会長の九州大学病院がんセンター長の水元が所用で欠席のため、代理で副センター長の高山が報告いたします。</p> <p>1. 研修・教育専門部会 新名簿 （福岡県がん診療連携協議会 研修・教育専門部会の委員名簿にて現在の委員を説明）</p> <p>2. 九州大学病院平成23年度研修会等の開催予定 （平成23年度研修会開催予定について資料にて説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆九州大学病院がんセミナー（年5回）</li> <li>◆福岡県コメディカルがん医療研修会（年3回）</li> <li>◆福岡県院内がん登録研修会（年4回）</li> <li>◆福岡県がん診療連携協議会 MSW研修会（年3回）</li> <li>◆第4回 九州大学病院 医師に対する緩和ケア研修会（年1回） 患者向けの研修会としまして</li> <li>◆市民公開講座（年1回）</li> <li>◆膝がん勉強会（月1回）</li> <li>◆九州大学病院がんセンタークローバー会（月2回） を計画しております。</li> </ul> <p>3. 医師に対する緩和ケア研修会について 現在、各拠点病院で緩和ケア研修会を実施されていますが、これを単位制にして、複数の拠点病院で受けた研修についても認めもらえるような制度にしてもらえないかと、県の方をお願いしたところ、これまで受けた単位の確認をした上で修了証書の発行についても県の方でまとめて行なって頂けることになりました。ただ、このような流れにしていくためには、ある程度拠点病院の講義内容を標準化していく必要であり、これについてはすり合わせが必要なことから3月と5月に研修・教育専門部会を開催し協議を行なっていきたいと考えています。</p> <p>4. がん地域連携クリティカルパスについて</p>

	<p>地域連携パスにおいて、当院と連携している病院が42施設ありますが、各施設が当院との連携先病院であることを福岡県内の各拠点病院に通知してよいかについてアンケート調査を行なったところ、41施設がご了解いただきました。</p> <p>重なって連携している施設の先生方は拠点病院ごとで実施していた連携先病院に対する説明会に参加することを省いていけるのではと考えます。効率的にパスの連携を進めていくために全体で行なっていければと考えています。九大病院の取組の紹介でした。</p>
九州がんセンター（院長）	<p>単位制になった場合、各病院で実施していることがある程度同じようにやっていく必要が出て来ると思いますが、細かなプログラムまで統一するのか、1日目、2日目でやっていくのか、何か決定していますか。</p>
福岡県（中原）	<p>単位型の研修会になった場合は、県で統一のプログラムを作成し国に承認を頂いた上で、各拠点病院で実施していただく形となります。教育研修部会の中の下部組織で緩和ケアワーキングにおいて、緩和ケア学会などである程度のひな型がありますので、福岡県バージョンに作り変えて作成していきたいと考えています。今現在も、土日とか日日で開催されていますが、あまり細かくプログラムを作ってしまうと、単位の管理が難しくなってしまいます。今のところ考えているのが、土曜日1単位、日曜日1単位の2単位制で、半日で1単位というように考えています。</p>
九州医療センター（池尻）	<p>最初の研修会開催の目安はいつからの予定で設定してありますか。23年度開催だと今から準備をすすめるのであれば、6月とかにすでに研修会の日程を組んでいる病院もあるので、かなり難しいと思う。24年度開催分からの対応を目指して今年の夏までに準備を進めていく位の日程調整をしていった方がよいのではないかと。</p>
福岡県（中原）	<p>まだ計画の段階ではありますが、あくまでも、がん拠点病院の現状報告に合わせていただいているので、年度の考え方が、4月スタートではなく、9月スタートで8月に終了という考え方に沿って準備をしていこうと考えています。5月までには形を作り、6月には報告を行い、8月までには最終的な決定を行い、9月から実施される分に対応していければと考えております。</p>
九州がんセンター（院長）	<p>23年の9月より実施される分から、スタートすることを目標に準備をしていくということをお願いします。</p> <p>連携パスの連携先病院の調整については、どのように行っていくと思いますか。</p>
九州がんセンター（藤）	<p>九州大学病院の方では大変すばらしい取組を実施されていると思います。先程医師会の方より説明がありましたが、あと数か所の医師会での調整が完了すれば、全体のリストが完成すると思われれますので、現状では、それを待った方がよいのではないかと。今後、全体のリスト作成がさらに時間を要する場合などの問題が生じた時に、九大の方式を採用していく流れを考えたいと思います。</p>
福岡県（中原）	<p><b>④連絡事項（福岡県）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県内の妊婦健康調査におけるHTLV-1抗体検査の医療・相談体制について（フローチャートにて説明）</li> </ul> <p>昨年秋に厚生労働省の研究班の中でHTLV-1の母子感染予防対策における結果が報告されました。その内容がマスコミ等でも話題となり、その流れでいろいろな対策や対応が決定されました。福岡県でも市町村が実施している妊婦健診において、急きよ23年1月から検査項目にHTLV-1が追加されることとなりました。また、検査を行うにあたり、陽性者に対する相談体制などについても対応が必要となることから、市町村や保健所、実施医療機関の連携やカウンセリングに関する事項についても決定されました。今回、拠点病院に対して関係してくるのが、ATLに対する対応です。妊婦健診医療機関や紹介医療機関から拠点病院に必要時には紹介する流れを構築しました。これは、何か新しいものを作成したというのではなく、従来行われている相談等の流れをフローチャートにしたものです。本来は、事前にこのような場で皆様の承認を受けた上で案内すべき事項でしたが、このような急な流れで決定した状況もあり、協議会の岡村院長先生にご相談したうえで、通知し取組を開始したところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関における成人T細胞白血病原因ウイルス抗体検査の実施状況について（状況報告により説明）</li> </ul>

参考データとして県内の産科医療機関におけるHTLV-1の検査実施状況を照会させていただいた結果を示したものです。

(抗体検査実施状況・・・ 97.8%)

(抗体検査受検率・・・約88.1%)

このデータから分かるように、自費だから実施しないとかいう状況ではなく、公費になるから極端に実施者が増えるような状況でもないと思います。

・相談支援センターへの情報提供について

国の方から事務連絡と言うことで、厚生労働省のホームページにATLの相談窓口として、がん診療連携拠点病院相談支援センターを公表されるということです。随時公表される通知や情報があった場合には、適宜、相談支援センターに情報提供を行っていきたいと思います。

#### 4) がん医療均てん化研究とその研究体制について

##### ①「がん医療の均てん化の評価」について：祖父江班と国立病院機構共同研究の結果

(スライドを用いて説明)

###### ○国立病院機構政策医療ネットワーク共同研究の概要

・【研究課題】がん診療連携拠点病院における「評価指数(Quality Indicator:QI)実施率」を用いたがん診療の均てん化の強化にかんする共同研究内容等について紹介

・研究の背景は、がん対策基本法が制定され基本的施策の中で、がん医療の均てん化の促進が掲げられたこと

・がん医療の均てん化は難しいため、厚労省研究班の祖父江班が作成した指標(Quality Indicator)を利用して共同研究を行なっている。

・全国15施設が参加し東大でデータ採録・収集(参加施設名は非公表)

・「治療前評価」QI2治療前の結成腫瘍マーカー値の測定・・・実施率：96%  
実施率は高く施設間の格差は小さいので、均てん化している。

・「治療前評価」QI7手術リスクの説明・・・実施率：26%

死亡率や生存率について数値を用いて説明していない施設が多く実施率は悪いので、均てん化していない。

・今後は、このような共同研究が、乳がん、肺がんでも始まります。

・今後、がん助成金のシステムが変わる予定で、がん拠点病院で実施している、院内がん登録の中で登録することも想定しながら進められていく予定です。

・均てん化の評価についての新しい情報が入りましたら、皆様方に情報提供していきたいと思います。

##### ②都道府県がん診療連携協議会を含めた臨床研究体制について

(都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 臨床試験部会

日時 2011年1月24日(月) 14:00~17:00

場所 国立がん研究センター内 国際交流会館3階会議室

で開催された会議の概要を報告)

###### ○医療イノベーションについて

・医療イノベーション会議とは新成長戦略のなかで、実用化に向けた医療研究開発の推進を始め、医療分野における新成長戦略に関連する事項の実現に向け、官民挙げて協力に取り組むため、立ち上げられた会議である。

・資源を戦略的に集中投入して、産官学が一体になり医療政策をすすめていく。

・今後の動きとしては、重点分野をまず「がん分野」に絞り込んでいく。

・全国臨床研究ネットワークを立ち上げ、がん分野については、都道府県がん診療連携協議会を活用して実施していくと記載されています。

・今後は、国がの方針で均てん化の観点から、地域がん拠点病院も加わり取組んでいくこととなります。

・様々ながんの研究グループなどもネットワークに加わり、共同で研究を行なっていくこととなります。

###### ○がん臨床開発ネットワークについて

・がん臨床開発ネットワークの骨子案として、研究者主導臨床試験の実施・支援の仕組みである。

・適応外使用薬の適応の拡大を目的とする研究者主導臨床試験の実施

・補助金についても拡充される見通しで、臨床研究参加施設にはCRCの person 費も配分される予定である。

九州がんセンター(院長)

九州がんセンター(臨床研究部長)

九州がんセンター（院長）	<p>今後、関連した情報が入れば、参加されているメンバーに連携協議会の方から情報提供したいと思います。</p>
九州医療センター（秋岡）	<p><b>5) 九州医療センターにおけるがん登録と予後調査の現状</b>  (スライドを用いて説明)  九州医療センターにおけるがん登録と予後調査について特色や現況について説明</p>
九州がんセンター（院長）	<p><b>6) その他</b>  <b>①平成23年度第1回福岡県がん診療連携協議会開催予定</b>  ◎日時 平成23年6月13日（月）14:00～  場所 九州がんセンター</p>
九州がんセンター（院長）	<p>○その他  国がん中央や厚労省から、がんの研究や拠点病院制度に関して意見を取りまとめるように指示を受けています。予後調査が自治体とのやりとりのなかでなかなか先に進まないことについては、意見としてお聞きしていますが、それ以外に何かございませんか。ございましたら、私の方でも結構ですし、相談支援センターへご連絡下さい。</p>
九州がんセンター（院長）	<p><b>7) 閉会の挨拶</b>  これもちまして平成22年度第3回福岡県がん診療連携協議会を閉会いたします。</p>
	<p>以 上</p>